

中学生の「税について」の作文

11月10日(土)、玉名市の白鷺荘別館で、中学生の「税についての作文」の表彰式が開催されました。
今年度は、荒尾・玉名地域から2、765点の応募があり、和水平町からは5点の入賞と学校表彰として三加和中が受賞されました。広報なごみでは、2ヶ月にわたり入賞された作品を紹介いたします。

南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞



三加和中学校2年
横手 希美 さん

「税のおかげで」と
「これからの税」

「おちつけ、大丈夫だけん。」
父の声で目が覚めた。よく見てみると車の目の前にブロック塀があった。私は、事故にあったのだ。父を迎えに行った帰りの事だった。母が運転をあまり道路の横のみぞにつっこんだ。私と父は寝ていて最初は何もわからなかった。
「痛い。首が痛い。」
母が首の痛みを訴えていた、近くの人が救急車を呼んでくれた。救急車がすぐに来てくれて、すばやい判断で病院に運んでくれた。私は初めて救急車に乗った。救急隊員の人たちは、おちついて対応していた。日頃から訓練をされているのがよく

南九州税理士会会長賞



菊水中学校3年
大山 愛花 さん

税について考える

私は、中学生になってこの作文を書くまで「税金」という言葉を特別には考えていませんでした。でも、この作文を書くことになり税のことについて考えてみることにしました。
私は、中学校に入ってから「母子家庭児童扶養手当」という言葉を知りました。最初聞いたときは、何のことか分かりませんでした。でも、お母さんに教えてもらいました。これは何らかの理由で母と子だけで生活している家庭に、県から援助してくれるものです。私も、お母さんと二人で暮らしていて、県から援助してもらっています。私はそのことを知ったときに、自分のお金の使い方

玉名税務署長賞



三加和中学校1年
荒木 秀太 さん

税の大切さについて

僕達が生活をする中で病気やケガは、するものです。その時に病院で治りようをします。病院では、治りよう費を払いますが、僕達がかかったお金の三割しか払わなくていいそうです。では残りのお金は、誰が払ってくれるのでしょうか。それは皆が払っている税金から払われています。もちろん僕の家も払っています。
最近僕は、手術をしました。なぜかという小さい頃に機械に腕をはさまれ、その時のケガのせいで、手首の骨の一部が伸びなくなってしまうのです。それからだんだん身長が伸びていくのですが、手首の二本の骨のうちの一本の骨が伸びな

わかる。母は心配だったけど不思議と安心できた。母は幸いな事に首のねんざだけですんだ。夜おそく家に帰りついた。救急車のありがたさと必要性を心から感じた出来事だった。もし、税がなかったら救急車もきてくれなかったはずである。私は昨年近所でおきた火災の時、すぐかけつけてくれた消防車、救急車、消防隊員のことを思い出した。社会生活を支えてくれるためには、様々な意味で税が大切であり、有効に税が使われるべきであると改めて強く思う。私にとって「税のおかげで」を感じる出来事であった。

私は税の学習をした中で「少子高齢化」と税はどんな関係があるか、とても気になった。なぜかという、子どもである自分達がたくさんの高齢者を将来支えていかなければならない事が不安だ。私は少々高くても払うことは大事であると思う。しかし、少ない人数で多くの高齢者を支えるのは本当に大変だなと心配にもなる。

「子どもを育てるのにたくさんのお金がかかる。その子が将来少子高齢化が進めば進むほどより多くの税を納めて、より多くの人を支えなければならぬ。子ども達の負担は、大きくなるばかりだね。」と母がいった。

「わあ、十年後二十年後はお母さんたちよりもいっぱい払わなんごつなるとるかな。」

と、思わず言ってしまった。私はいろいろ考えてみた。少子高齢化が進んでいる現状を考えると、少ない子ども達への負担がどんどん大きくなる。子どもを育てるためにお金がかかるので、そのお金をかけなくていい人は、自分の将来を支えるための税を今のうちから積み重ねていく事も少子高齢化の時代の子どもの達にかける負担を少しでも減らす一つの方法だと思ふ。

私は今まで税のおかげでとしか考える事ができなかったが、少子高齢化で考えたようにもつと税について自分なりに考えてみようと思った。

について考えてみました。物を使い終わる前に、新しい物を買ったりして無駄使いしていたと思います。私は、熊本県の人達から集められた税金の一部から手当をもらっているから、もつと感謝しないといけないと思いました。これからは、もつと感謝して物を大切に使うと思ひます。

そして、税金は私達が使っている、教科書や机、椅子、体育館などに使用されていることを知りました。他にもたくさんのことに使われていると思います。こんなふうと考えてみると私達が考えている以上に税金は活躍しているんだなと思ひました。

私は、税のことをよく考える前は、消費税なんていらなないと思ひていたし、消費税が上がるかもしれないと聞いて、上がるなんて考えられないと思ひていました。でも、高齢化が進み、働く人が少なくなってきたり今の現状を考えると、消費税を上げること考えなければいけなくなってきたりするのかなあと思ひます。大人の人が払うからと軽く考えていました。でも、税について考えてみて、税金は、私達の生活を支えるために必要なもの、みんなが安心して暮らしていくために必要なものであると思ひました。

私は、この作文を書くことは、税についてよく考える良いきっかけになったと思ひます。これからは、援助してくださっている人達に感謝の気持ちを忘れずに、税金のことについて、今から関心をもつて生活していきたいです。

くなつてしまいました。だから、その一本の骨をもう片方の骨と同じ長さにする為に手術を受けました。

僕は今回税の勉強をした後に、お母さんに「腕の手術も税金から払われたの。」と聞いたら、お母さんは、「そうだよ。秀太が今までに受けた手術のお金の約三分の二は税金からだよ。」と言っていました。僕はそうだったんだと思ひました。

今までの事を思い出してみると、僕はもう何度も手術を受けていますし、それだけではなく、耳鼻科や皮膚科や内科など今までに病気で何回も治りようを受けています。そのたびに三割しかお金を払っていません。家だけでも五人は家族がいるし、皆病院に行くので、家族だけでも年間すごい金額が税金から来ているのだと思ひました。これが国全体になると、いったいどのくらいの金額になるのか想像もつきません。そう考えると、税金というのは、すごく大切なものなのだと思ひました。今、僕達の生活は、税金なしではなり立たないみたいです。病院の治りようだけではなく学校生活や、ゴミの処理、安全を守ってくれる警察、消防などすべての面で税金が使われているからです。だから僕達は、生活が出来るのです。

ただ、今は、少子高齢化が進んできています。この先、何十年後かには、税金を納める若い人達がだんだん減ってきて、納まるお金も減ってきてきます。そうなるとうままでのような生活は出来なくなります。どうしても、一人あたりの税金を上げないといけません。ただ上げすぎると、また生活できない人も出てくるかもしれないので、国の代表の人達が、どうするかを考えてくれているようです。早くその方法が見つかると思ひます。

僕も何年後かには、税金を払うようになると思ひますが、皆の為にも、僕の為にもきちんと税を払いたいと思ひます。